

令和7年度 訪問看護相互交流派遣研修事業 報告会



- ▶ 安佐医師会病院
- ▶ なごみの郷 訪問看護ステーション
- ▶ 2026.3.14



- ▶ 社会福祉法人 正仁会
- ▶ なごみの郷 訪問看護ステーション
- ▶ 越智 勇太

経歴

- 介護福祉士

特別養護老人ホーム 3年間

- 看護師

病院（地域包括ケア病棟、急性期病棟、外来、ケモ室）11年間
なごみの郷訪問看護ステーション 2年目

なぜ訪問看護で働こうと思ったのか？

病院勤務でもその人らしさや価値観を大切にしたケアを提供したいと思っていたが、在宅で、より一層その人らしさをサポートしたいと思うようになり、フィールドを変えることにした

地域包括ケア病棟で働いていた時 思っていたこと

- ◆ 看護師が少ないため受け持ちが多い
- ◆ 退院支援に関してMSWに頼りきりになっていた
- ◆ 介護度が高い
- ◆ リハビリが必要と言いつつ、一人で動かない様に制止することもあり矛盾を感じていた
- ◆ 在宅でどのような生活をされているのか、全く想像がつかなかった

訪問看護で働き始めて思ったこと

- ◆ (あたりまえだけど) 自由に過ごされている
- ◆ 看護師がご家庭に入り込むため、病院よりも本人や家族に寄り添える
- ◆ まさに個別性に特化している
- ◆ 基本、本人と家族が望まないことは実施しない
- ◆ 思っていたより自宅での看取りを希望する方は少なくないと感じた



地域連携室見学で感じたこと

前方支援

- ◆ 直入院も多く、地域に欠かせない病院
- ◆ 相談事も多種にわたり地域のことを把握
- ◆ 様々な所から情報収集が必要

後方支援

患者家族の希望に沿った退院支援を全員でサポートするため、MSWが中心となり率先して多職種との連携を工夫されていた。

(退院支援シート作成・3人カンファレンス実施)



地域包括ケア病棟見学で感じたこと

- ◆ JONSEN「臨床倫理の4分割表」で退院までの道筋と課題が一目瞭然
- ◆ 独自の退院支援シートで入院時からの経過と現在どの段階なのか、多職種の見線も一覧になって一目でわかりやすい
- ◆ カンファレンスが節目ごとに開かれ、患者ご家族の意思決定を尊重している
- ◆ MSWだけでなく多職種全員で退院支援
- ◆ 病院から離れていたため医療現場を再度見学でき、知識のアップデートが出来た



緩和ケア病棟見学で感じたこと

- ◆ プライバシーに配慮されて患者様は穏やか、ご家族も安心
- ◆ どの職種も不安を感じさせない姿勢、コミュニケーション力の高さ
- ◆ 医師が病棟におられるため症状コントロールも迅速で安心
- ◆ 看取りの一方で、退院支援もされていた

【在宅で聞かれた不安な声】

- ◆ 入院したい時期と順番待ちの状況の不安
- ◆ 未だ「死ぬのを待つだけの病棟」との誤解もある



ご清聴ありがとうございました
